ISSN 0027-9153

月報

国立国会図書館

世界図書館・情報会議　第79回国際図書館連盟（IFLA）年次大会

未来の図書館—無限の可能性

The Librarians of Fukushima　福島の図書館員たち

2013.12
No.633

国立国会図書館利用案内

東京本館

所　在　地　〒100-8924　東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号　03(3581)2331
利用案内　03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ　http://www.ndl.go.jp/
利用できる人　満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用　館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日　日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料　和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間　月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は 17:00までです。
資料請求受付★　月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00
※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。
即日複写受付　月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
後日郵送複写受付★　月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30
★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館　利用者サービス部　サービス運営課　03(3581)2331　内線25211

関西館

所　在　地　〒619-0287　京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号　0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ　http://www.ndl.go.jp/
利用できる人　満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用　館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日　日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料　和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、
科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間　月～土曜日 10:00～18:00
資料請求受付★　月～土曜日 10:00～17:15
セルフ複写受付　月～土曜日 10:00～17:30
即日複写受付　月～土曜日 10:00～17:00
後日郵送複写受付★　月～土曜日 10:00～17:45
★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館　関西館　総務課　0774(98)1224［直通］

国際子ども図書館

所　在　地　〒110-0007　東京都台東区上野公園12-49
電話番号　03(3827)2053
利用案内　03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ　http://www.kodomo.go.jp/
利用できる人　どなたでも利用できます。
資料の利用　館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日　月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料　国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間　火～日曜日 9:30～17:00　※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。
第一・第二資料室の利用時間　閲覧時間　火～土曜日 9:30～17:00　資料請求受付　火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間　即日複写受付　火～日曜日 10:00～16:00　後日郵送複写受付　火～日曜日 10:00～16:30
複写製品引渡し　火～日曜日 10:30～12:00　13:00～16:30

■見学のお申込み／国立国会図書館　国際子ども図書館　03(3827)2053［代表］

12 December

CONTENTS

02 The care of books　建物・設備・備品
今月の一冊　国立国会図書館の蔵書から

04 未来の図書館―無限の可能性
世界図書館・情報会議　第79回国際図書館連盟（IFLA）年次大会

18 The Librarians of Fukushima　福島の図書館員たち

19 本屋にない本
○『日本時間　日系社会向けのラジオ番組　ブラジル編』

20 館内スコープ
NDLオリジナルを作っています

22 お知らせ
○平成25年度子ども読書連携フォーラム
○平成25年度児童サービスワークショップ
○新刊案内　国立国会図書館の編集・刊行物

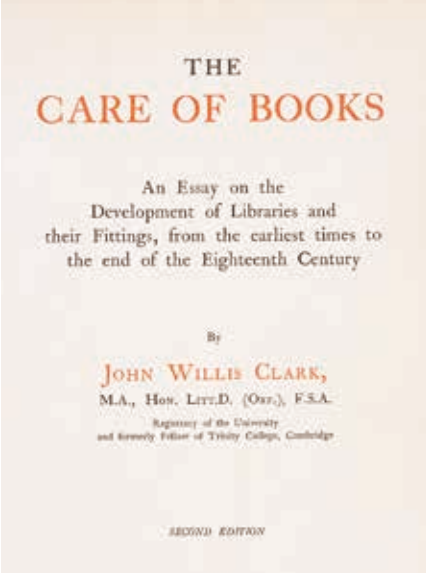
26 『国立国会図書館月報』年間索引

今月の一冊 December

国立国会図書館の蔵書から

The care of books　建物・設備・備品

鈴木　宏宗


THE
CARE OF BOOKS

An Essay on the
Development of Libraries and
their Fittings, from the earliest times to
the end of the Eighteenth Century

By

JOHN WILLIS CLARK,
M.A., Hon. Litt.D. (Oxf.), F.S.A.
Registrary of the University
and formerly Fellow of Trinity College, Cambridge

SECOND EDITION

写真1　1902年版のみ書名・著者名が朱色（標題紙）

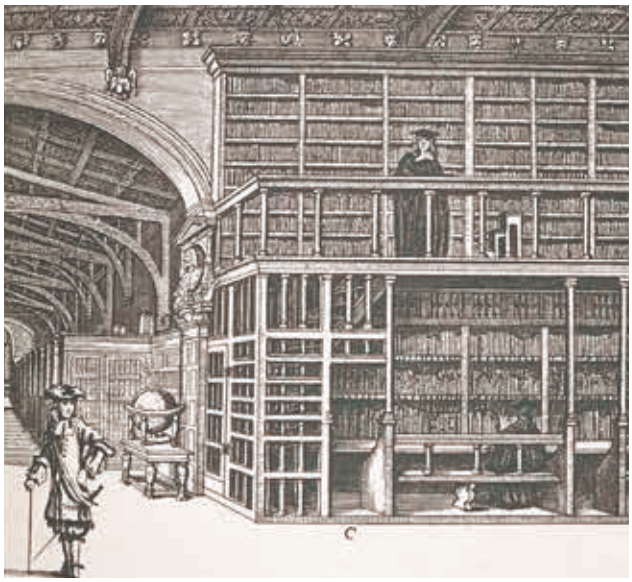


写真2　ボドリアン図書館（1901年版　p.275）

タイトルを見ると、本の手当てや補修が思い起こされるかもしれないが、サブタイトルが示す通り、本書には古代から18世紀末までの、いわゆる近代的な図書館が成立するまでの歴史が書棚などの備品とともに記されている。1901年に初版を刊行、翌1902年には図版を追加するとともに参考文献一覧を付した第2版（写真1）が、1909年には第2版の廉価版が出版されている。後に複数の復刻が出ており、現在では、インターネット上でデジタル化された1901年版を読むこともできる[1]。

著者のジョン・ウィリス・クラーク（John Willis Clark 1833-1910）は、ケンブリッジで生涯を過ごした古物愛好研究家として有名であり、おじのロバート・ウィリス（ケンブリッジ大学教授、Robert Willis　1800-1875）の遺稿を本にまとめ[2]、建築物に興味を持ち、中世やルネッサンス期の図書館についても著作がある[3]。

当時、西洋の図書館通史はまだ少なく、エドワード・エドワーズ（Edward Edwards　1812-1886）によるものくらいしかなかった[4]。それにくらべて図書館の建物や書架などについての記述や図版が多く（写真2）、眺めているだけでも面白い。近年、ケンブリッジ大学のフィッツウィリアム美術館（Fitzwilliam Museum）にて本書に使われた写真が見つかり、同館のウェブサイト上で公開されている[5]。

本書は西洋の書物や図書館史の参考文献として使われている。例えば、古代ローマの巻物の入れ物の絵（写真3）は、田中敬（1880-1958）の『図書学概論』（冨山房 1924）[6]（写真4）や和田万吉（1865-1934）の『図書館史』（芸艸会 1936）[7]で引かれており、図版の元本としても重宝されていたと思われる。また、ライデン大学図書館の図（写真5）も岡田温『図書館』（三省堂 1949）に収録されているもの[8]の元かもしれない。

日本に輸入された頃の価格について、丸善の広報誌『学

写真3　古代ローマの巻物入れ（1901年版　p.30）

写真4　古代ローマの巻物入れ（田中敬『図書学概論』p.459）

写真5　ライデン大学図書館（1909年版　p164）

The care of books; an essay on the development of libraries and their fittings, from the earliest times to the end of the eighteenth century. Cambridge : University press

○1901年版 ＜ 請求記号　027-C593c ＞
○1902年版 ＜ 請求記号　UL521-46 ＞
○1909年版 ＜ 請求記号　022-C593c ＞

写真6　南葵文庫蔵書印（1909年版　標題紙）

鐙』[9]に掲載されている販売価格をみると、12.5円（1902年6月号）、10円（1904年5月号）、3.75円（1910年9月号）で、その頃、小学校教員の初任給が10～13円である[10]のとくらべると、それなりの値段といえる。

昭和初期の国内における所蔵状況をみると、『図書館学及書誌学関係文献合同目録』（青年図書館員聯盟　1938 p.22）[11]によれば、東京帝国大学図書館や帝国図書館など主たる図書館23館のうち17館が所蔵し、文芸評論家で愛書家の内田魯庵（1868-1929）も1909年版を所蔵していた[12]。

当館は各版と1902年版のリプリント（1997）[13]を所蔵している。1901年版は帝国図書館が購入したもので、1902年版と1909年版は国立国会図書館が成立した後に入手したものである。なお、1909年版には徳川頼倫（よりみち）（1872-1925）によって設立された私立図書館「南葵文庫」（1902年創立、1924年蔵書を東京帝国大学に寄贈）の蔵書印（写真6）[14]が残されており、これもまた戦前に輸入されていたことがうかがえる。

（すずき　ひろむね　利用者サービス部政治史料課）

1　https://archive.org/details/careofbooks00claruoft
http://www.gutenberg.org/ebooks/26378
2　*The architectural history of the University of Cambridge and of the colleges of Cambridge and Eton*（1886）
3　*Libraries in the Medieval and Renaissance Periods*（1894）
4　*Memoirs of libraries: including a handbook of library economy*（1859）
5　http://www.fitzmuseum.cam.ac.uk/gallery/clarke/intro.htm
6　国立国会図書館デジタル化資料。複製（早川図書　1982）あり。
7　国立国会図書館デジタル化資料（館内限定公開）。複製（図書館短期大学同窓会橘会　1971）、新訂版（慧文社　2008）あり。
8　鈴木宏宗「図書館：戦後青少年に向けた本」本誌621号（2012.12）参照。
9　国立国会図書館デジタル化資料（館内限定公開）。
10　週刊朝日編『値段史年表 明治・大正・昭和』（朝日新聞社　1988）p.92
11　国立国会図書館デジタル化資料。同目録は『図書館学関係文献目録集成 明治・大正・昭和前期編』第2巻（金沢文圃閣　2001）に収録。
12　千代田図書館所蔵の内田魯庵旧蔵書の売立目録「東京某名士所蔵古書売立目録」に掲載。同目録は『反町茂雄収集古書販売目録精選集』第3巻（ゆまに書房　2000）に収録。
13　Thoemmes Press : Kinokuniya, 1997
14　稲村徹元「国立国会図書館所蔵本　蔵書印―その131南葵文庫」本誌297号（1985.12）参照。同記事は国立国会図書館『人と蔵書と蔵書印』（雄松堂　2002）にも収録。

IFLA WLIC 2013
SINGAPORE
http://2013.ifla.org

未来の図書館－ 無限の可能性

世界図書館・情報会議
第79回国際図書館連盟（IFLA）年次大会

IFLAは、1927年に創設された図書館および情報サービスに関する世界最大の組織です。テーマ別に設けられた40以上の分科会や、資料保存、著作権等法律問題といった戦略的プログラムなどを通じて、世界の図書館界の様々な課題に取り組んでおり、毎年、世界各国で大会を開催し、活動報告、意見交換や交流活動を行っています。また、IFLA大会開催に合わせて、いくつかの大きな会議が催されます。

2013年8月、シンガポールで開催されたIFLA大会ほか会議の概要を誌上でご紹介します。

今年のIFLA大会は、「未来の図書館：無限の可能性（Future Libraries: Infinite Possibilities）」のテーマのもと、8月17日から23日にかけてシンガポールで開催されました。アジア・オセアニア地域での開催は、2006年のソウル大会以来7年ぶりとなります。国立国会図書館からは、大滝則忠館長をはじめ、13名の代表団が参加しました。

今大会には、124か国から3,750名が参加しましたが、参加者数の上位3か国は、シンガポール1,047名、米国308名、中国197名。日本からは当館からの13名を含む79名が参加しました。大会では50以上の公開セッション、100以上のポスター発表が行われました。

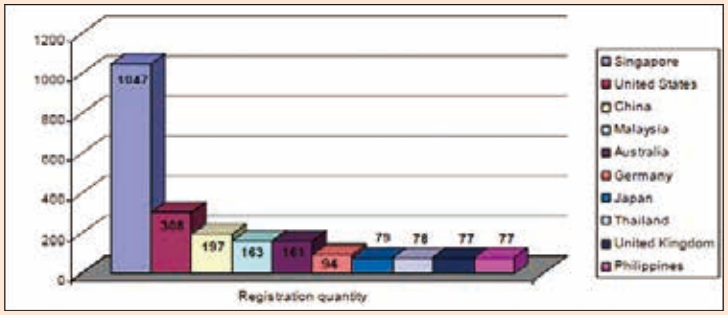
大会期間中に行われた展示会には、80以上の出展がありました。当館もブースを設け、「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」や「国立国会図書館デジタル化資料」を紹介しました。

今年は、IFLA会長の交代の年に当たり、8月22日に行われた閉会式では、イングリッド・パラン会長（カナダ）の退任挨拶、シニッカ・スピーラ会長（フィンランド）の所信表明「強い図書館、強い社会（Strong Libraries, Strong Societies）」が行われました。

また、もっとも優れたポスター発表に贈られる“Best IFLA Poster 2013”に、鈴木（すずき） 史穂（しほ） 氏（福島県立図書館）の“The Librarians of Fukushima”が選ばれました（18ページ参照）[1]。このほか、2015年の大会開催地にケープタウン（南アフリカ）が選ばれたことが公式に発表され、民族音楽風の曲が流れる中、同国代表団は踊って喜びを表現していました。

（国立国会図書館IFLAシンガポール大会代表団）

開会式では伝統芸能「龍舞」も披露されました



国別参加者数グラフ（IFLA作成）

さまざまな民俗衣装で歓迎イベントに臨む子どもたち

1　カレントアウェアネス-E No.245 E1478（2013.9.26）に、鈴木 史穂 氏へのインタビュー記事を掲載している。

国立図書館の将来とデジタル戦略

国立図書館長会議（CDNL）
IFLA国立図書館分科会

大滝館長（左）とビル・マクノート ニュージーランド国立図書館長（右）。「ひなぎく」のポスターの前で

（1）国立図書館長会議（CDNL）

8月20日に第40回CDNL[2]がシンガポール国家図書館において開催され、54か国から90名以上が参加しました。当館からは大滝則忠館長が出席しました。

会議会場で、当館は「ひなぎく」を紹介するポスターを展示し、注目を集めました。日本と同様に近年震災を経験しているビル・マクノートニュージーランド国立図書館長は特に強い関心を示していました（写真上）。

昨年のCDNLでは、「国立図書館と公文書館の統合」が話題になり、それについて議論を深めることが提案され、その中で、2013年1月に国立図書館と公文書館の相乗効果についてのラウンドテーブルが開催されたとの報告がありました。ラウンドテーブルにはカナダ、オランダ、ニュージーランド、スイスから参加があり、各国の状況を報告したことに加え、統合という形ではなくても、地図、文書、画像等のコレクションを共同で管理すること、デジタル化や保存等を行う等、国立図書館と公文書館の間でより多くの協力が相乗効果として考えられる、との報告がありました。

また、①国立図書館の将来、②「トレンド・レポート」が国立図書館に示唆するもの、③図書館の蔵書のデジタル化とデジタル資料に係る権利、という3つのテーマに分かれてグループディスカッションが行われ、日本は、シンガポール国立図書館長が司会進行を務めたグループ①に参加しました。4つのホワイトボードに、国立図書館の将来にとって重要と思う概念を言葉にして各自が記し、その中からさらに重要と思われる概念に点数を与えて絞り込んでいく、という方式で進められましたが、最終的に「過去を将来へ残していく」、「フリーアクセス」、「ナレッジ・ナビゲーター」、「ローカル（郷土）資料」が4つの重要な概念として残りました。

CDNLの2013年から2014年までの活動については、ボーンデジタル資料の収集、納本制度の枠に収まらないものについて今後どのように対処すべきかを、すでに英国図書館が行った調査も参考にしながら取り上げていくことが提案され、来年のCDNLで報告される予定です。

国立図書館が担うべき役割について各国で様々な試みと議論がなされ、図書館が進化し続けていることを改めて感じる機会となりました。

（大島（おおしま）　薫（かおる）　総務部支部図書館・協力課長）

2 http://www.cdnl.info/index.php?option=com_content&view=article&id=125&Itemid=64

(2) IFLA国立図書館分科会

8月22日に開催された、国立図書館分科会セッションは、「国立図書館におけるデジタルコレクション戦略：挑戦と機会（Digital collection strategies at National Libraries: challenges and opportunities）」をテーマに行われました。

当館からは、山田敏之関西館長が「国立国会図書館のデジタルコレクション戦略」[3]と題し、資料のデジタル化、インターネット資料収集保存事業、東日本大震災アーカイブ事業、オンライン資料収集について報告しました。

英国図書館は、限られた予算で、増加し続ける電子出版物を有効にアーカイブするには、国内研究機関や大学等と分担して収集・保存することが重要であり、国立図書館は長期保存とオープンアクセスコンテンツの収集を担うべきであると報告しました。

シンガポール国家図書館委員会は、国が長年進めてきた、文化・知的記憶の収集、組織化、保存のための国家プロジェクト「シンガポール・メモリー・プロジェクト（SMP）」が機関を超えて包括的になり、国民の個人的な記憶までクラウドソーシングで収集できるようになったことを紹介しました。

スウェーデン国立図書館は、デジタル化資料のインターネット提供に関する著作権問題への取り組みについて報告しました。権利の管理を受託していない著作権者の著作物についても、著作権の集中管理機関が許諾を与えることができる拡大集中許諾制度を紹介し、デジタルアクセス実現のための資金調達やビジネスモデルの確立が大きな課題であると述べました。

（長崎（ながさき）　理絵（りえ）　電子情報部電子情報流通課）

国立図書館分科会における当館報告

より良い立法調査サービスの提供を目指して

IFLA議会のための図書館・調査サービス分科会
アジア太平洋議会図書館長会議（APLAP）

(1) IFLA議会のための図書館・調査サービス分科会プレコンファレンス
アジア太平洋議会図書館長会議（APLAP）

議会のための図書館・調査サービス分科会（議会図書館分科会）第29回プレコンファレンスは、8月14日から16日まで、シンガポールマネジメント大学リカシン図書館で開催されました[4]。テーマは、「より良い法律を作る―議会図書館・調査サービスの独自の役割（Making better laws – the unique role of parliamentary library and research services）」でした。

会議では、シンガポール議会図書館の概要説明、タイとミャンマーの議会図書館間の相互交流、カナダ議会によるカンボジア立法支援プロジェクト、欧州議会図書館やザンビア議会図書館の活動、オランダ議会における図書館部門と調査部門の連携などに関する報告が行われました。

オランダでは、議会の図書館部門と調査部門と

3 http://library.ifla.org/218/
4 http://www.ifla.org/events/ifla-singapore-pre-conference-2013

は別組織でありながら、密接に協力して成果を上げており、質の高いサービスを議員に提供するには、両者の協力が大切であると改めて感じました。両部門の連携のあり方については、来年のプレコンファレンスでもテーマとされるので、引き続き注目していきたいと思います。

アジアでの開催ということで、分科会とアジア太平洋議会図書館長会議（APLAP）との協力のもと、アジア太平洋諸国からの報告が多かったようです。

この間、8月15日には、旧国会議事堂内でAPLAPのビジネスミーティングが開かれ、当館からは網野光明調査及び立法考査局長が大滝館長の代理として出席しました。

（2）IFLA大会セッション

IFLA大会における議会図書館分科会のセッションは、8月21日午後、「議員のための調査資源（Research resources for Parliamentarians）[5]」をテーマに開催されました。カナダ、ウガンダ、イランおよびアメリカから報告がありました。

Googleなどで容易に情報収集ができるようになった今、議員のニーズを満たすためには、分析により調査内容の付加価値を高めること、そして多忙な議員やそのスタッフのため、数多くの政策課題について文書をじっくり読まなくても分かるように図やグラフを用い、情報を視覚化して提供することが大切だ、といった主張が印象的でした。

アメリカ議会図書館調査局では、情報の視覚化に地理情報システム（GIS[6]）を導入し、好評を得ているそうです。世界でも日本でも、議会サービスでは、高度な分析に裏打ちされたビジュアルな調査報告が求められているようです。

5 http://conference.ifla.org/past/2013/session-187.htm
6 Geographic Information System
7 http://conference.ifla.org/past/2013/session-126.htm

このほか、議会図書館分科会と法律図書館分科会および政府機関図書館分科会との合同セッション[7]も行われ、アジア諸国におけるネット上での法令・判例情報の公開状況等について報告が行われました。

（小澤（おざわ）　隆（たかし）　調査及び立法考査局調査企画課）

国会議事堂（外観）

国会議事堂内図書館見学の様子

旧国会議事堂（APLAP会場）

図書館サービスの主体となるIT技術

IFLA情報技術分科会常任委員会

初日の情報技術分科会常任委員会の様子

情報技術分科会[8]は、IFLAの5部会の一つ、第3部会である図書館サービス部会を構成する11の分科会等の一つです。その名のとおり情報技術の図書館情報サービスへの適用を促進し、前進させることを目的としています。国立国会図書館として、今期初めて委員を擁立し、常任委員会に参加しました。

今回の大会は委員改選期に当たっていたため、交代する新旧委員等が一堂に会する会合となりました。常任委員はヨーロッパ勢が多数を占めていますが、次々年の大会開催地が南アフリカであるためか、今年の常任委員改選では南アフリカがメンバーの数を増やしました。

会議では、戦略計画の確認や今後の活動内容について、次々年度まで見据えた議論がなされました。

まず、委員長から、これまでの戦略計画を改定し、情報技術分科会が主体となって、IFLAの事業・活動、他の分科会の行事に対し、IT技術に関する助言・援助活動を行うことを追加する提案があり、了承されました。これに関連して、各常任委員の専門性を活かしてどのように活動していくかについて、今後検討していくことになりました。

情報技術分科会の現在の独自活動分野として、オープンソース[9]とLinked Data[10]が挙げられます。大会期間中に開催したオープンソースに関するセッションが非常に盛況だったことから、オープンソースに対する期待が大きいことを委員の間で再認識し、その価値をユーザーに紹介し普及する取り組みの更なる必要性が共有されました。そのため、2015年を目途に、オープンソースの紹介や適用事例等を盛り込んだハンドブックを作成することになりました。Linked Dataについては、データ作成のための標準やリンク作成等の技術的な観点、事例紹介等を求める利用者の視点、そしてそれが何かを知りたい図書館員の立場など、様々な切り口から普及していくため、引き続き他の関係分科会と合同で活動を進めることになりました。

他にも、2014年大会のセッションで取り上げる話題として、「クラウド環境におけるサイバーセキュリティ」、「電子書籍」等が提案されました。これらの議論を通して、世界の図書館活動の最新事例や動向を実感することができ、刺激を受けました。

なお、情報技術分科会とは直接の関わりはありませんが、IFLAが2011年から重要施策として進めてきた、IFLA出版物や大会の発表論文等を収録・公開するためのリポジトリが完成し、IFLA Libraryとして公開されました。本大会の発表論

8 http://www.ifla.org/it/
9 プログラムのソースコードが公開されていて、自由に利用や改変ができるソフトウェア。
10 一般のウェブは、文書がハイパーリンクでつながっている「文書のウェブ」(Web of Documents)、Linked Data はデータがハイパーリンクでつながった「データのウェブ」(Web of Data) といえる。

文等から収録されています。こちらも多くの方に活用していただきたいです。

（竹鼻（たけはな）　和夫（かずお）　電子情報部電子情報サービス課）

IFLA Library 画面　http://library.ifla.org/

見直される「標準」類

IFLA書誌分科会常任委員会、目録分科会常任委員会、標準に関する委員会バーチャル国際典拠ファイル評議会

（1）IFLA書誌分科会ほか

書誌分科会常任委員会[11]では、昨年に引き続き、全国書誌[12]に関する指針の改訂を中心に議論しました。改訂版は冊子体ではなく分科会のウェブサイトにオンライン資料として掲載する予定で、“Best Practice for National Bibliographic Agencies in the Digital Age”というタイトルのもと、指針に則した事例を紹介し、また、全国書誌のLinked Open Data[13]としての提供を推進する方向で編集が進められています。

オブザーバとして出席した目録分科会の常任委員会では、「国際目録原則覚書」の見直しや書誌・典拠に関する3モデル（FRBR[14]、FRAD[15]およびFRSAD[16]）の整理統合が行われています。全国書誌に関する指針も含め、これらの「標準」類は比較的近年に策定されたものですが、情報環境の変化等に合わせて、内容の更新がすでに進められています。

目録分科会常任委員会では、また、『国際標準書誌記述』（ISBD：International Standard Bibliographic Description）について、見直しというよりもその戦略が議論となりました。ISBDは、これまで、日本の目録規則も含め各国の目録規則が準拠してきた「標準」です。一方で、『英米目録規則第2版』の後継として刊行された“Resource Description and Access”（RDA）はISBDに準拠していません。そのRDAが各国で採用されつつある状況の中、IFLAとしてISBDを今後どのような方向へ持っていくべきなのか、書誌分科会でも討議を行いました。

2012年1月に設置された、標準に関する委員会にもオブザーバとして出席しました。IFLAが公表している「標準」類は、「ガイドライン」があっ

書誌分科会常任委員会の様子

たり「原則」があったり「ベスト・プラクティス」があったりと様々であるため、この委員会では、IFLAが扱うべき全ての「標準」を再整理し、標準化を推進しています。書誌に関係する「標準」類はこの観点からも見直されるでしょう。

こうした「標準」類の見直しや議論の過程において各国への意見募集等があれば、当館からも意見を提出し、国際的な書誌調整に積極的に関与していきたいと考えます。

(2) バーチャル国際典拠ファイル評議会

なお、IFLA年次大会開始の前日8月16日に、シンガポール中央公共図書館にて開催されたバーチャル国際典拠ファイル（VIAF：Virtual International Authority File）評議会会議にも出席しました。2012年10月からVIAFに参加した当館も評議会のメンバーです。会議では、現況報告の後、今後の計画を議論しました。

今回の会議では、シンガポールでの開催に合わせて、アジアにおける典拠データの活用事例を議事として扱い、この中で筆者は「Web NDL Authorities and VIAF」と題して当館の典拠データについて発表しました。

（大柴（おおしば）　忠彦（ただひこ）　収集書誌部収集・書誌調整課）

11 http://www.ifla.org/bibliography
12 ある国の出版物（広義にはその国に関する著作やその国の言語で書かれた出版物等を含む）の記録。
13 注10参照。ウェブ上で自由にリンクしやすい仕組みのデータ。特にデータ利用に制限を持たないもの、または公開の積極的な活動等をLinked Open Dataという。
14 Functional Requirements for Bibliographic Records
書誌レコードの機能要件
15 Functional Requirements for Authority Data
典拠データの機能要件
16 Functional Requirements for Subject Authority Data
主題典拠データの機能要件
17 http://conference.ifla.org/past/2013/session-146.htm

前にしか道はない—多様化する図書館資料

IFLA資料保存分科会、情報技術分科会、貴重書・写本分科会、議会図書館分科会合同セッション
IFLA視聴覚・マルチメディア分科会ワークショップ

(1) IFLA4分科会合同セッション

8月20日、資料保存分科会、情報技術分科会、貴重書・写本分科会、議会図書館分科会の4分科会合同で行われたこのセッション（Preserving for the future: Integrating physical and digital preservation）[17]では、従来の形ある資料とそれら有体物のデジタル複製物、そしてボーンデジタル資料など、多様な情報を同じ図書館資料として管理し、長期利用を保証するための統合的な取り組みをテーマとして、7つの発表が行われました。

資料の多様化に呼応して、保存業務の範囲は年々拡大している一方、確保できる資源は減少傾向にあります。限られた資源の割り当てをめぐり、個々の対策が競合する状況を打開するための考え方や方策を扱った各国の報告が続きました。

フランス国立図書館では、資料デジタル化への資源投入が急増し、現物保存のための対策が圧迫される事態が生じており、それを受けて、保存担当部門のデジタル化事業への積極的な関与を決めたそうです。アクセスの拡大と現物保存の両面に大きく貢献するデジタル化が優先される現況は覆りません。そのため、デジタル化作業中の資料の取り扱いや対象資料の選別に関する助言や研修、資料に対する事前の手当てや保護を保存担当部門

が行うことにより、これまで現物保存のための対策が果たしてきた役割を、デジタル化作業の中に少しでも組み込み、生かして行く方向に意識を変えさせたとのことでした。業務内容が激変した保存担当部門の現場には相当な混乱が生じたものの、求められる新しい役割も見えてきた、現物資料に対する手当ては効率的なデジタル化を進める上で必須であることも分かったと結ぶ報告者からは、ピンチをチャンスに変えて前進しようとする強い意志を感じました[18]。

ドイツ国立図書館からは、効率的な資源配分を可能にするには、館内に点在する様々な保存対策を一括管理する必要があることから、コレクション全体を視野に入れた総合的な保存対策の推進を目的として、部局・機能横断的な体制を構築したという報告がありました。

どの図書館等の発表からも、多様化する図書館資料の保存を進めるために、様々な工夫を行っていることを知ることができました。今後ますます増え続けるデジタル資料と従来の紙資料との融合的な保存方法の重要性を改めて認識しました。

（岡橋（おかはし）　明子（あきこ）　収集書誌部資料保存課）

18　http://library.ifla.org/241/1/146-vallas-en.pdf

展示ブースで漉き嵌め機を使った被災文書の修復作業を紹介

（2）国立国会図書館報告

この合同セッションで、当館は「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ開発事業と現状（National Diet Library’s efforts to build the Great East Japan Earthquake Archive and its current status）」と題して報告しました[19]。東日本大震災アーカイブ事業を開始するまでの経緯、事業の概要、基本理念、収集対象および関連機関との連携について紹介し、東日本大震災に関する記録の保存と提供、利活用の現状と課題や将来の展望について報告しました。課題や展望については、まず東日本大震災に関する記録の継続的な収集や連携先の追加、そのための呼び掛け、そして利用の拡大のために使いやすい仕組みを作ること、コンテンツ利用促進のために二次利用の体制を整備する必要性についても触れ、最後に東日本大震災に関する記録を世界に伝え、後世まで残すことを強調し、発表を終了しました。

ニュージーランドとその近辺の大きな地震が発生した地域では震災に関するアーカイブ事業の意義を強く認識されており、震災に関するアーカイブの構築について深い関心と理解を示すコメントがありました。

（長崎（ながさき）　理絵（りえ）　電子情報部電子情報流通課）

19　http://library.ifla.org/243/

「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ事業と現状」報告

(3) 視聴覚・マルチメディア分科会ワークショップ

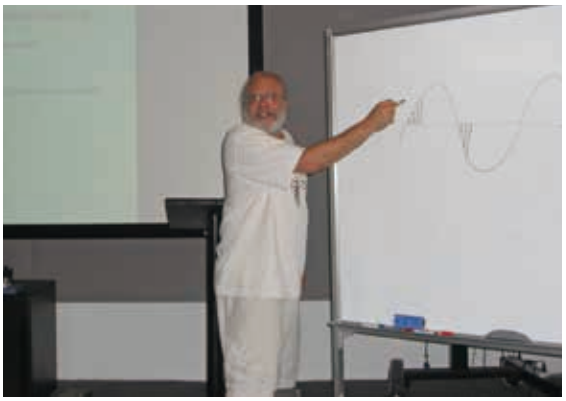
8月19日、視聴覚資料の保存についての基礎的事項を学ぶ講習会が行われました[20]。フィルム・テープ・レコード・ビデオ等の取り扱いと保管上の注意点、劣化要因と対策の事例、媒体変換、状態調査・リスクマネジメント等が主な内容で、参考資料の紹介もありました。

視聴覚資料は物理的に脆弱な媒体が多く、フォーマットや再生機器の陳腐化という悩みにも常につきまとわれます。そのため、長期保存するには定期的なフォーマット変換が不可欠とのことでした。

一度始めると継続し続けなければならないこと、利用形態が変わる可能性があること、著作権上の問題が発生すること等、フォーマット変換にも課題はあります。しかし、アナログな視聴覚資料をそのままの状態で利用提供し続けることがかなわない以上、うまく先に進む方法を模索するしか選択肢はなさそうです。講師からは、定期的なフォーマット変換を担保する長期計画を策定し、他の対策との効果的な組み合わせや適正な資源配分を行う「保存管理」が課題解決の鍵の一つとして示されました。

（岡橋（おかはし）　明子（あきこ）　収集書誌部資料保存課）

20 http://conference.ifla.org/past/2013/session-96.htm



ワークショップ講師を担当したハワード・ベサー氏（ニューヨーク大学・動画のアーカイビングと保存プログラムディレクター）

地域事情に即した保存のための協力

IFLA資料保存コア活動（PAC）セッション、ビジネスミーティング

IFLAで資料保存に携わるグループは、資料保存分科会（前項報告（1）参照）と資料保存コア活動（PAC：Preservation and Conservation Core Activity）[21]の2つです。PACの活動は、国際センターと世界各地の国立図書館に置かれた14の地域センター・国内センターが担っています（国立国会図書館はアジア地域センターです[22]）。PACの目標は図書館資料の長期保存ですが、地域によって課題が異なるため、各センターが地域の状況に応じた内容と方法で、協力ネットワークの促進、教育・研修等に取り組み、資料保存活動を推進します。国際センターは、各センターに助言し、メーリングリストや機関誌で情報流通を支えています。

(1) セッション

PAC主催の公開セッションは、「アジアにおける文化遺産の保存：協力の進展（Cultural heritage preservation in Asia: Innovation in cooperation）」をテーマとして8月21日に開催され、三つの発表がありました。

アジアを舞台とした会議であったにもかかわらず、アジアからの発表がアジア地域センターからのみであったのは残念でしたが、長期保存の対象である文化遺産にまつわる幅広い話題を、PACのキーワードの一つである「協力」でくくり、

21 http://www.ifla.org/files/assets/pac/IPN/10-06-13%20IFLA_PAC_3%20volets.pdf
22 http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/iflapac.html#02

筆者（左）とPAC国際センター長クリスチャン・バリラ氏（右）

セッションが行われました。

アジア地域センターからは、「文化財レスキュー事業（東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業）」を中心に、東日本大震災後の資料救済における分野横断的な協力の進展について報告し、被災資料への対応が今も続いていること、美術館・博物館とは違う図書館資料特有の資料救済の考え方があることなどを紹介しました[23]。米国議会図書館からは、同館とユネスコ（UNESCO）が推進するワールドデジタルライブラリー[24]、ニュージーランド国立図書館からは、デジタル保存のための中国国家図書館との協力事業[25]について、報告がありました。

(2) ビジネスミーティング

8月17日に開催されたPACビジネスミーティングには、例年になく多数の関係者が集まりました。約20年にわたりPAC国際センターが置かれていたフランス国立図書館が、予算削減により国際センターを手放すことになり、PACの運営体制の大きな変更について話し合う必要が生じたからです。

IFLA本部からは、「現状の業務を時代に合わせて軽減した上で、国際センターを本部事務局が受け持ち、従来以上にIFLAの方針に合致した活動を目指したい」との提案がありました。具体的には、PACの紙媒体の機関誌[26]を廃止し、電子書籍の保存など最新のデジタル保存の課題とIFLAが近年特に重視している災害時の文化遺産保存に集中的に力を注ぎたい、とのことです。

本部の提案にも一理ありますが、PACには、冒頭で述べたように地域によって課題の種類がかなり異なるため、あえて内容も方法も一様にせずに活動してきた歴史があります。提案された方向性に対して、地域センター長、諮問委員等からは、

「電子書籍の保存は、欧米では中心課題かもしれないが、アフリカでは酸性紙が喫緊の課題である」

「ロシアにはインターネットに安定的に接続できない広大な地域があり、紙媒体の機関誌の保存は必須だ」

「担当地域には、資料保存の考え方と基礎技術といった基本的な研修へのニーズが依然として存在している」

「各地のノウハウや実例を共有し互いに参考にできるようコーディネートするのが、国際センターの主要な任務ではないか」

など、多くの異論も出されました。

資料保存先進地域と途上地域の違いが改めて浮き彫りになるとともに、PACの活動のあり方を

23 http://library.ifla.org/256/
24 http://www.wdl.org/en/
25 http://news.xinhuanet.com/english/culture/2012-12/20/c_132053258.htm
26 *International Preservation News* http://www.ifla.org/publications/international-preservation-news

整理する重要な機会となりました。大会後、少人数の検討グループで、年内に結論を出すべく、メールベースで議論を続けています。国際的な活動の変わり目に居合わせて、議論の行方から目が離せません。

（小林　直子（こばやし　なおこ）　収集書誌部主任司書、
IFLA/PACアジア地域センター長）

展示ブースにて 1

展示会開会式はにぎやかに

初日に行われた展示会開会式は立食パーティー形式で、ワイン片手に各ブースを見て回る来場者も多く、たいへんな賑わいを見せました。2時間で400名以上が当館ブースを訪れ、当館代表団は総出で対応にあたりました。

（国立国会図書館
IFLAシンガポール大会代表団）

児童・ＹＡサービスの新事情

IFLA児童・ヤングアダルト図書館分科会サテライトミーティング、常任委員会、関連セッション

（1）IFLA児童・ヤングアダルト分科会サテライトミーティング

児童・ヤングアダルト図書館分科会のサテライトミーティング[27]は、8月14日、15日の2日間、タイのバンコクにおいて、資料保存コア活動（PAC）と共催で開催されました。テーマは「未来を創る：児童・ヤングアダルトに関する、全ての形態の文化遺産の保存、デジタル化、アクセス（Creating the future: preserving, digitizing and accessing all forms of children's and young adults' cultural heritage）」で、15か国から約120名が参加しました。

日本図書館協会の推薦を受けて日本から参加した「かながわこどもひろば」の石川道子氏は、日本のわらべ歌について、幾世代にもわたり歌い継がれてきたことや、最近では幼い時期から美しい言葉のリズムに親しむことの効用が知られるようになり、公共図書館や保育園、幼稚園等でわらべ歌を取り入れるようになったことなどを報告し、実演を交えてわらべ歌を紹介しました。

（2）IFLA児童・ヤングアダルト分科会常任委員会

サテライトミーティングの後、シンガポールに移動し、8月17日からIFLA大会が始まりました。

27　http://iflabangkok2013.tkpark.or.th/index.html

オフサイトセッションが行われたジュロング公共図書館

17日の児童・ヤングアダルト図書館分科会[28]常任委員会では、IFLAのヤングアダルトへの図書館サービスのガイドライン“Guidelines for Library Services For Young Adults”が日本語に翻訳されたとの報告がありました。ガイドラインの日本語訳はIFLAのサイトで読むことができるほか[29]、日本図書館協会から購入することができます。

また今後の予定として、2014年に現行の「児童図書館サービス」のガイドラインの見直しを行うことと、2015年には「乳幼児への図書館サービス」のガイドラインの見直しを行うこととしました。

(3) 関連セッション

19日には、「研修と教育」をテーマにしたセッション（Future Libraries – Future Librarians – Future Skills: Directions for the education and training of children's and youth librarians - the challenge of identifying competencies and encouraging professional development in the digital age）が行われました。

20日には、ジュロング公共図書館において、「ヤングアダルトサービスと図書館（Young adults and libraries : innovation, involvement, self-realization—Libraries for Children and Young Adults）」をテーマに、オフサイトセッションが行われ、ロシア国立図書館のヤングアダルトサービスのほか、フィンランド、フランス、フィリピン、アメリカからの5つの報告と、図書館見学がありました。

21日には、分科会のプロジェクトである「絵本で世界を知ろうプロジェクト」と「姉妹図書館」をテーマにしたセッション（IFLA projects “The World through Picture Books” and “Sister Libraries” : new developments and how to benefit from the project）が行われました。

「研修と教育」のセッションでは、アメリカから報告があり、児童図書館員に求められるスキルが多岐にわたるようになったこと、アメリカには統一された研修プログラムがないので、児童・ヤングアダルト図書館分科会による研修モデルの開発を希望することなどが表明されました。

これを受けて分科会では、新規のプロジェクトとして、「研修」を取り上げることにしました。

2014年は、モスクワでのビジネスミーティング、フランスのリヨンでIFLA大会、パリでサテライトミーティングが予定されています。

（飛田（とびた）　由美（ゆみ）　国際子ども図書館児童サービス課長）

28 http://www.ifla.org/libraries-for-children-and-ya
29 http://www.ifla.org/files/assets/libraries-for-children-and-ya/publications/ya-guidelines2-en.pdf

展示ブースにて 2

さまざまな国からの参加者を迎えて

展示ブースでは、多くの参加者と接することができました。

地震・津波関係の資料に関心があるという東南アジア諸国やチリの方々。

環境問題について研究していて日本にも注目しているというブラジルの大学教授。

オーストラリアの大学でレファレンスを担当しているという日本人司書。

とにかく世界中の図書館と関わりを持ちたいというベナンの方。

高齢化問題は日本の学術情報が参考になるというシンガポールの方。

大学時代に学んだ日本語を久々に使ったというオーストリアの国立図書館司書。

先祖の戸籍を調べたいという日系米国人の方。

当館デジタル化資料の利用について尋ねるガーナの大学図書館司書。

栄養学の図書館と間違えて売り込みに来たシンガポールの出版社の方。

来場のきっかけは様々ですが、展示を通して当館および日本への理解を一段と深めていただけたと感じています。

（加藤（かとう）　祐平（ゆうへい）　総務部支部図書館・協力課、中島（なかじま）　寛（ひろし）　利用者サービス部サービス企画課）

The Librarians of Fukushima

福島の図書館員たち

鈴木　史穂

IFLA大会において、震災後の福島の図書館員たちの活動を紹介した私の作品、“The Librarians of Fukushima”が「Best IFLA Poster 2013」を受賞しました。

ポスターでは、世界中から届いた支援に対する謝意を述べ、震災・原発事故後の福島の図書館員の活動を紹介しました。「震災直後」、「震災から１か月」、「震災後約１か月～１年」、「現在」という時間軸を設け、それぞれの時期に図書館員たちが何を考え、どのような読書・情報支援活動をしたのかを、似顔絵を添えて伝えました。震災後、再会した図書館員たちの話を聞き、避難所での新聞の発行、図書室の設営、学校図書館における子どもたちへの安らぎの提供など、経験豊富な図書館員だからこその行為と思うことがいくつもあり、それを伝えたいと思いました。

ポスター・セッションでは、図書館の被害や復旧の状況、原発事故後の避難区域内にある図書館などについて、たくさんの方々から質問があり、共感と励ましの言葉を頂戴しました。

福島には震災と原発禍に苦しみつつも奮闘している人が大勢います。頂いた賞は、私だけではなく、福島と福島の図書館員たちへのエールだと思っています。

（すずき　しほ　福島県立図書館）

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、
日本国内の出版物を広く収集しています。
ここでは、主として取次店を通さない
国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

日本時間

日系社会向けのラジオ番組　ブラジル編

平原哲也 著・刊
2010.5　284p　26cm　　＜請求記号　UC237-J8＞

本書は、1930年代から現代までにブラジルで放送された日系人向けラジオ番組を通じて、日系社会（コロニア）の歩みを辿る。書名の「日本時間」は、日系人向けラジオ放送が聞こえてくる時間を意味し、人種の坩堝（るつぼ）の同国には、「イタリア時間」、「ドイツ時間」等と呼ばれるものもあるらしい。

著者は、現地発行の日本語新聞、日系人向け出版物の広告から「日本時間」を網羅的に拾い上げるという地道で根気のいる作業から、「戦前の日本時間」「サンパウロ市における日本時間」「奥地における日本時間」「外国語放送に関する制限」「現代の日本時間」の各章で、当時の記事を多彩に引用しつつ、コロニアの放送史を臨場感あふれる筆致で紡ぎだす。巻末に付された「日本時間一覧表」、「ラジオ放送関係者一覧」等の参考資料は、現地や日本国内で多くの関係資料を丹念に調査してまとめ上げた労作だ。

1932年7月放送の「日本の夕」を皮切りに、日本からの短波放送の受信、1937年の満州事変以降に戦時色が濃くなる中で日本の国策で作られたポルトガル語解説付きのレコードを用いた放送、日本が敵国となった第二次世界大戦期の中断を経て、戦後の日本語番組ブームを機に、「日本時間」は1950年代に発展期を迎えることになる。この頃には、放送番組が格段に増え、各地方での放送も盛んで、美人アナウンサーがもてはやされ、ニュースや音楽ばかりでなく『君の名は』等のドラマも日替わりで放送された。1957年には日系人経営の放送局「プブリブラス」も誕生し、全国の「日本時間」放送局がリスナーの心を捉えるべく、競って番組を制作していたことが窺える。

その一方、移民の同化政策を推進するブラジルでは、外国語放送時間枠には上限があった。1961年に同国芸能人保護を目的として法令が制定されて以降、外国語放送に対する規制が強化された。軍事政権下のナショナリズムの台頭もその勢いを加速し、この状況が1980年代末まで続いた。本書には、幾度となく行われた時間枠撤廃に向けた運動や番組のやりくりの苦労も綴られている。

1990年に晴れて時間枠は撤廃されたが、今度は日本への出稼ぎ者の増加によるリスナー減少や、日本のテレビ番組の普及という新たな要因により、「日本時間」の多くが姿を消すことになる。しかし、そのような厳しい時代でも、カラオケチャンピオンから宗教番組に至るまで多様な「日本時間」を維持し続け、最新のJ-Popを紹介し、世界のウチナンチュー（沖縄人）大会とのコラボレーションを企画する放送人の姿は非常に頼もしく、コロニアでの日本文化の継承に一役買っていることは間違いない。また、Rádio Nikkeyが行った2002年の調査では、日本アニメの人気の影響か、日系人以外のリスナーが1/3も存在するという結果が出ている。まだまだ「日本時間」には大きな希望と可能性が残されているといえそうだ。

（利用者サービス部図書館資料整備課　蛭田（ひるた）　顕子（あきこ））

※入手に関するお問い合わせ先
ホームページ　http://radiophj.web.fc2.com/

NDLオリジナルを作っています

今年もやってきたクリスマス。プレゼントとケーキが主役の恒例行事という感もありますが、少し気分を変えて、オリジナルカードを作ってみてはいかがでしょう。

総務係では毎年、館内のほかの部署と協力して、海外の図書館関係者の皆さまにお送りするクリスマスカードを作っています。当館所蔵の貴重書の中から、日本的で美しいと思われる絵柄を選んで作る、国立国会図書館オリジナルの解説付きカードです。

12月の発送に向けて準備を始めるのは6月ごろ。館長の名前でさまざまなところに送るため、完成までにはあらゆる観点から指摘が入ります。ひとまず絵柄が決まっても、それをカードにするのは思いのほか大変です。資料が傷むのを防ぐため、新たな撮影を避け、すでに撮られたデータをもとに印刷会社に複製をお願いするのですが、そのままでは色が違ってしまうので、原資料と複製を照らし合わせながらの色合わせが必要となります。ただし、原資料を見られるのはほんの数回。資料を後世に残すことは私たち国立国会図書館の使命ですから仕方ありません、限られた機会に各部分の色をしっかりと目に焼き付け、あとは記憶をたよりに調整を行います。

「ここの赤はもっと深みのある色でしょう」

「もう少し、地の金箔がきれいに出ないかな」

古典の世界を色あざやかによみがえらせる、美しい絵巻仕立ての『竹取物語』。今年はその一場面を採りました。

カードのほか、海外から館長表敬にいらした方や、出張先の外国機関に差し上げる記念品も、当館所蔵資料を活用して作ります。私も絵柄の候補を出したので、進み具合が気になります。

ここまでですと「総務係は楽しそうなことばかり！」と思われそうですが、日々の出勤簿処理や物品要求、会議資料の準備にコピー機故障時の対応、さらには当館刊行物の全国への発送から館内放送まで、とにかく多種多様な仕事をこなすというのが実際のところです。多くの糸を束ねるという意味の「総」が三つもついている当係、総務部総務課総務係。糸のように繊細なものだけでなく体力勝負の仕事もありますが、今日も図書館の心臓部を支えています。

（総務課総務係　よろずやの新米）

in 仙台

主催：国立国会図書館、東北大学災害科学国際研究所

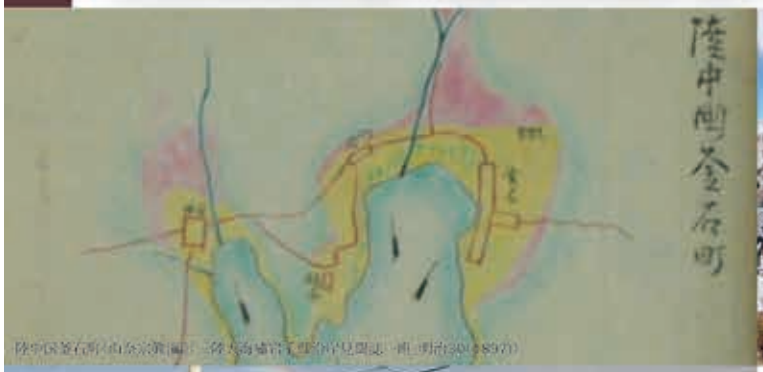
2014年1月11日（土） 13:00～17:30（開場12:30） 入場料：無料

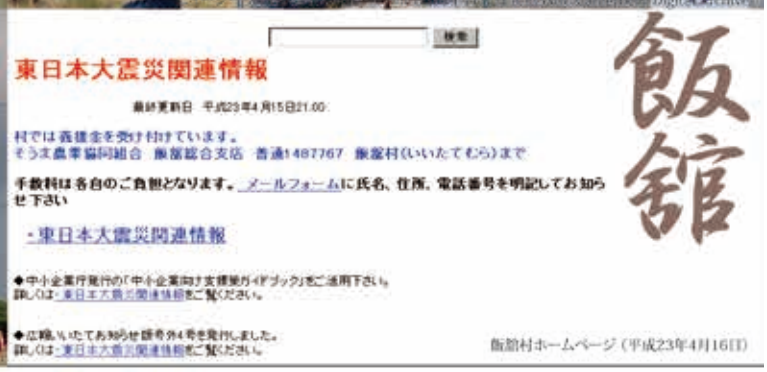
東北大学青葉山キャンパス工学部・工学研究科センタースクエア中央棟2階大講義室（仙台市青葉区荒巻字青葉6-6）

東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム

未来をつくる地域の記憶

Community memories for the future





飯舘

【国際招待講演】

「参加型デジタルアーカイブに向けた計画と展望」

アンドルー・ゴードン氏（ハーバード大学歴史学教授／エドウィン・O・ライシャワー日本研究所JDArchiveプロジェクトディレクター）

「なぜ大災害をアーカイブするのか？自然災害に関するデジタル記録の保存及び無料公開の重要性について」

ポール・ミラー氏（カンタベリー大学人文科学創造芸術学科長／CEISMICカンタベリー地震デジタルアーカイブ事務局長）※逐次通訳付（英⇔日）

【事例報告】

稲垣文彦氏（公益社団法人中越防災安全推進機構復興デザインセンターセンター長）

岡山信夫氏（株式会社農林中金総合研究所代表取締役専務）

坂田邦子氏（東北大学大学院情報科学研究科講師）

田中　亮氏（宮城県図書館資料奉仕部震災文庫整備チーム主事）

【パネルディスカッション】

「未来をつくる地域の記憶」

進行：今村文彦（東北大学災害科学国際研究所教授）

河村孝祐氏（三重県防災対策部防災企画・地域支援課専門主査）

水谷大氏（福島県いわき市立豊間小学校校長）ほか

申込方法：みちのく震録伝ホームページの
シンポジウム申込みフォームから

申込締切：2014年1月6日（月）17:00

詳　　細：みちのく震録伝（東北大学災害科学国際研究所）
http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp

災害科学国際研究所 IRIDeS
International Research Institute of Disaster Science

問合せ先：東北大学　災害科学国際研究所　情報管理・社会連携部門
災害アーカイブ研究分野　小野、佐藤、柴山　☎022(795)4842
メールアドレス：archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

in 東京・京都

主催：国立国会図書館

2014年1月9日（木） 14:00～16:00（開場13:30） 入場料：無料

国立国会図書館東京本館新館3階大会議室（千代田区永田町1-10-1）及び関西館第一研修室（京都府相楽郡精華町精華台8-1-3）※東京本館の様子を中継

震災アーカイブに関する研究会：NZカンタベリー地震と東日本大震災の経験から

申込方法・詳細：国立国会図書館東日本大震災アーカイブ＞お知らせ　http://kn.ndl.go.jp/information/253

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

問合せ先：国立国会図書館電子情報部　電子情報流通課
東日本大震災アーカイブ担当　☎03(3581)2331（代表）
メールアドレス：hinagiku@ndl.go.jp　FAX番号 03(3581)0768

■ 平成25年度 子ども読書連携フォーラム

国際子ども図書館では、子どもの読書活動を更に推進するために、関係者間の連携と協力を促進する「子ども読書連携フォーラム」を開催します。

今年度は、「中高生への読書推進を考える」をテーマに、参加者の皆さんとともに中高生の読書活動の現状を共有し、課題を探ります。

○テーマ　「中高生への読書推進を考える」

○日時　平成26年3月3日（月）　13:00～16:00
＊閉会後、希望者を対象に自由懇談・交流を行います。

○会場　国際子ども図書館3階ホール

○対象　公共図書館職員、学校図書館担当者、研究者、児童書出版者等

○定員　80名。申込多数の場合は調整します。

○参加費　無料。ただし、旅費等は参加者の負担とします。

○お申込方法　次の事項を記載の上、平成26年2月3日（月）までに電子メールでお申し込みください。
①氏名（ふりがな）、②所属、③電話番号、
④自由懇談・交流の参加希望の有無、
⑤当日のディスカッションの参考のために、以下の質問への回答にご協力ください。
[図書館職員の方]
貴館で行っている、中高生向けの読書案内・読書相談サービスの概要、その成果と課題について
[図書館職員以外の方]
公共図書館や学校図書館で行われている、中高生向けの読書案内・読書、相談サービスについてのご意見・ご要望

お知らせ

＊参加の可否は、平成26年2月中旬までにお知らせします。

＊電子メールでのお申込みができない場合はご相談ください。

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課 企画推進係

電子メール　h25forum@ndl.go.jp

電話　03（3827）2053（代表）

＊フォーラムの詳細は、ホームページをご覧ください。

国際子ども図書館ホームページ（http://www.kodomo.go.jp/）

＞研修・交流＞関連機関との連携協力＞子ども読書連携フォーラム

＞平成25年度 中高生への読書推進を考える

URL　http://www.kodomo.go.jp/study/cooperation/forum2/h25.html

■ 平成25年度 児童サービスワークショップ

国際子ども図書館では、児童サービスの担当者間の意見交換・相互交流に資するため、「公共図書館でのおはなし会を考える」をテーマに、ワークショップを開催します。

○テーマ　「公共図書館でのおはなし会を考える」
○日時　平成26年3月4日（火）　9:30～12:00
　＊14:00から希望者を対象に国際子ども図書館見学を行います。
○会場　国際子ども図書館2階研修室
○対象　公共図書館の児童サービス担当者
○定員　20名。1機関1名。申込多数の場合は調整します。
○参加費　無料。ただし、旅費等は参加者の負担とします。
○お申込方法　次の事項を記載の上、平成26年1月10日（金）までに電子メールでお申し込みください。
　①氏名（ふりがな）、②所属、③電話番号、
　④国際子ども図書館見学の参加希望の有無

＊参加の可否は、平成26年1月中に通知します。
＊参加が決定した方には、おはなし会の現況に関する事前アンケートをお送りしますのでご協力ください。
　アンケート集計結果は、ワークショップ当日に報告します。
＊電子メール以外の申込方法については、下の連絡先までお問い合わせください。

○お申込み・お問い合わせ先
国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課 児童サービス係
電子メール　jisaws2013@kodomo.go.jp
電話　03（3827）2053（代表）　FAX　03（3827）2043

＊ワークショップの詳細は、ホームページをご覧ください。
国際子ども図書館ホームページ（http://www.kodomo.go.jp/）
＞展示会・イベント＞イベント情報＞これからのイベント＞平成25年度児童サービスワークショップ
URL　http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2013-15.html

新刊案内

国立国会図書館の編集・刊行物

レファレンス　754号　A4　134頁　月刊　1,050円　発売　日本図書館協会

<小特集：領土と海洋―中国の動向を中心として―>

・尖閣諸島をめぐる日中の対外発信活動

・南シナ海における中国の海洋進出および「海洋権益」維持活動について

・中印国境問題の現状

・原子力発電所の地震リスク

・科学技術イノベーション政策の司令塔機能の現状と課題

・新たな人権救済機関の設置をめぐる動向（短報）

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033　東京都中央区新川1-11-14　電話　03（3523）0812

前号「本屋にない本」に関するお知らせ
本誌632（2013年11月）号「本屋にない本」24ページで紹介した『うまいぞ！シカ肉　捕獲、解体、調理、販売まで』は取次店を通じて流通しており、一般書店でも取扱いがあります。

国立国会図書館月報　年間索引

平成25年(2013) 1月号 〜 12月号　NO.622〜633

凡　　例　記事種別ごとに、掲載順に排列した。
記　載　例　国立国会図書館の平成25年度予算　（総務部会計課）　627　⑥　：28-29

記事名　執筆者名　掲載号　掲載月　頁

今月の一冊

国立国会図書館の蔵書の中から、美しい本、珍しい本、面白いエピソードがある本を広く紹介。

帝国議会開設五十年記念の展覧会　昭和天皇の視線の先に	（葦名　ふみ）	622　①　：　4-5
皇城実測図　明治初期の皇居	（津田　深雪）	623　②　：　2-3
当南身延妙利益　歌舞伎の辻番付草稿	（伊藤　りさ）	624　③　：　2-3
文徳実録攷異　小中村清矩と木村正辞の「日本文徳天皇実録」校訂作業	（大沼　宜規）	625　④　：　2-3
石橋湛山の演説原稿　首相就任時の政治信念	（堀内　寛雄）	626　⑤　：　2-3
豆腐百珍　江戸の味を楽しむ	（永村　恭代）	627　⑥　：　2-3
ハルモニウム・スートラ　インド音楽、西洋楽器に出会う	（林　瞬介）	628/629　⑦/⑧　：　2-3
文人たちの手にした洋書　翻訳の底本になった帝国図書館蔵書	（藤元　直樹）	630　⑨　：　2-3
大日本維新史料原稿　史料集編纂の一過程	（藤田　壮介）	631　⑩　：　2-3
相馬大作白沢一件書類　津軽藩主襲撃未遂事件の真相	（川本　勉）	632　⑪　：　2-3
The care of books　建物・設備・備品	（鈴木　宏宗）	633　⑫　：　2-3

一般記事

図書館界の最新情報、国立国会図書館の蔵書、サービス、業務などを紹介。

平成25年の新年を迎えて	（大滝　則忠）	622　①　：　2-3
学校図書館との連携による授業支援サービス　国際子ども図書館の調査研究プロジェクト講演会から	（国際子ども図書館児童サービス課）	622　①　：　18-25
学校教育・学校図書館の現況と学校図書館との連携による学習支援プロジェクト	（鎌田　和宏）	622　①　：　26-28
典拠でつながる情報検索の世界	（収集書誌部収集・書誌調整課）	623　②　：　26-29
ことばの壁をこえる典拠 —バーチャル国際典拠ファイル（VIAF）への参加	（収集書誌部収集・書誌調整課）	623　②　：　30-34
日本の子どもの文学　国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み	（国際子ども図書館「日本の子どもの文学」展示班）	624　③　：　14-15
天沢退二郎さんに聞く　—21世紀の宮沢賢治—	（宮川　健郎）	624　③　：　16-24
郷土の歴史を残す　復興支援活動としての吉田家文書本格修復	（収集書誌部資料保存課）	624　③　：　25-30
「国立国会図書館デジタル化資料」を海外へ　第23回日本資料専門家欧州協会年次大会	（奥田　倫子）	625　④　：　20-23
ベルリン国立図書館について—東アジアコレクションを中心に	（ウルズラ・フラッヘ）	625　④　：　24-26
ブカレスト大学外国語学部、日本語学科図書室	（ステルツァ・マリアナ・マクシム）	625　④　：　27-28
HathiTrustの挑戦　デジタル化資料の共有における「いま」と「これから」	（総務部支部図書館・協力課）	625　④　：　30-32
ポルトガルの納本制度と国立図書館　収集整理業務を中心に	（安積　暁美）	626　⑤　：　4-9

電子情報の収集とメタデータ　電子納本に関するドイツ国立図書館の戦略 ―コルネリア・ディーベル氏の講演から（収集書誌部収集・書誌調整課）	626 ⑤ : 12-15
上空から記録された空襲　米国戦略爆撃調査団文書のインターネット提供開始（利用者サービス部政治史料課）	626 ⑤ : 16-20
資料の落下を考える　―地震に対する図書館の備え―　第23回保存フォーラムから　（収集書誌部資料保存課）	626 ⑤ : 21-29
被災地の子どもの読書支援の今とこれから― 国際子ども図書館講演会「東日本大震災と子どもの読書を考える」（国際子ども図書館企画協力課）	627 ⑥ : 11-17
なぜ今、海外日本研究支援か？―日本専門家ワークショップ（関西館図書館協力課）	627 ⑥ : 24-27
国立国会図書館の平成25年度予算（総務部会計課）	627 ⑥ : 28-29
楽譜の風景　― 音楽の明治・大正・昭和 ―（林淑姫）	628/629 ⑦/⑧ : 4-14
新しい統合検索サービス　国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）（電子情報部電子情報サービス課次世代システム開発研究室）	628/629 ⑦/⑧ : 16-19
東日本大震災の記録をのこす意志、つたえる努力　東日本大震災アーカイブ公開記念シンポジウム（電子情報部電子情報流通課）	628/629 ⑦/⑧ : 20-25
新たな貴重書のご紹介　第47回貴重書等指定委員会報告（貴重書等指定委員会）	630 ⑨ : 4-11
重要文化財指定資料紹介『新修浄土往生傳』（利用者サービス部人文課）	630 ⑨ : 12-13
電子展示会「ヴィクトリア朝の子どもの本　イングラムコレクションより」（国際子ども図書館企画協力課）	631 ⑩ : 4-9
企画展示　名勝負!!（展示委員会企画展示小委員会）	631 ⑩ : 11-18
スポーツ報道と大衆（森岡　理右）	631 ⑩ : 19-22
憲政資料室の新規公開資料から（利用者サービス部政治史料課）	632 ⑪ : 13-23
未来の図書館―無限の可能性　世界図書館・情報会議　第79回国際図書館連盟（IFLA）年次大会（国立国会図書館IFLAシンガポール大会代表団）	633 ⑫ : 4-17
The Librarians of Fukushima　福島の図書館員たち（鈴木　史穂）	633 ⑫ : 18

関西館10周年を迎えて

平成24年10月に開館10周年を迎えた国立国会図書館関西館の各種記念イベントの紹介。

関西館10周年を迎えて 1	622 ① : 12
私のめざす公共建築―国立国会図書館関西館、森鷗外記念館の経験を経て（陶器二三雄；関西館10周年記念行事担当編集）	622 ① : 13-17
関西館10周年を迎えて 2	623 ② : 4
私の図書館巡歴と関西館　―史料に導かれた連鎖視点への歩み―　山室信一氏の講演から（山室信一；関西館10周年記念行事担当編集）	623 ② : 5-12
関西館10周年を迎えて 3	624 ③ : 4
国立国会図書館関西館開館10周年記念国際シンポジウム　図書館サービスとｅ戦略（関西館10周年記念行事担当）	624 ③ : 5-13

シリーズ 被災地の図書館は今

国立国会図書館の被災復興支援に関わる活動や被災地の図書館の現状等を紹介。

シリーズ　被災地の図書館は今（4）	622 ① : 6
タイ国洪水による資料被災と文書遺産保護ワークショップ　―現地報告―（川鍋　道子）	622 ① : 7-11
シリーズ　被災地の図書館は今（5）	625 ④ : 4
東日本大震災と図書館　―3年目の始まり―（兼松　芳之）	625 ④ : 5-13

シリーズ 雑誌の七変化

日々変わりゆく雑誌資料を、７つのテーマのもとに紹介する3回シリーズ。

1. 雑誌の創刊　2. 雑誌の改題	（利用者サービス部図書館資料整備課）	623 ② ： 14-18
3. 雑誌の分離・派生　4. 雑誌の合併　5. その他の変更	（利用者サービス部図書館資料整備課）	625 ④ ： 14-19
6. 雑誌の休廃刊　7.雑誌の復刊	（利用者サービス部図書館資料整備課）	627 ⑥ ： 18-22

世界図書館紀行

海外に派遣された当館職員が、現地で見た特色ある図書館を紹介。

南京	（湯野　基生）	623 ② ： 19-25
アイゼンハワー大統領図書館	（日向　智昭）	627 ⑥ ： 4-10
ボストン	（藤本　守）	632 ⑪ ： 4-11

本の森を歩く

国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回一つのテーマにそって蔵書を紹介。

第10回　中央集権と地方分権の歴史に関する12冊（前編）	（井田　敦彦）	630 ⑨ ： 15-20
第11回　中央集権と地方分権の歴史に関する12冊（後編）	（井田　敦彦）	631 ⑩ ： 23-29

館内スコープ

館内の様々な業務を担当職員が紹介するコラム。

多様な出版物の収集に努めています	（国内資料課収集第三係）	622 ① ： 29
インフォメーション／一期一会	（サービス運営課総合案内係）	623 ② ： 13
少数精鋭「R本」	（人文課人文第一係）	624 ③ ： 31
安心して働ける職場を目指して	（人事課厚生室福祉第一係）	625 ④ ： 29
5月25日は、納本制度の日	（収集・書誌調整課納本制度係）	626 ⑤ ： 10
雑誌が変われば書誌データも変わる	（逐次刊行物・特別資料課整理係）	627 ⑥ ： 23
音と映像の記録を伝えるために	（音楽映像資料課資料係）	628/629 ⑦/⑧ ： 15
文書の番人	（総務課文書係）	630 ⑨ ： 14
思い出の児童書、探します	（資料情報課情報サービス係）	631 ⑩ ： 10
複写カウンターにて	（複写課館内複写係）	632 ⑪ ： 12
NDLオリジナルを作っています	（総務課総務係）	633 ⑫ ： 20

本屋にない本

納本制度により収集した出版物の中から、主に取次店を通らず入手しにくい国内出版物を紹介。本誌創刊以来の連載。

『渋沢栄一と関東大震災　復興へのまなざし　テーマ展シリーズ“平和を考える”』	（小針　泰介）	622 ① : 30
『横浜華僑の記憶　横浜華僑口述歴史記録集』	（長崎　理絵）	623 ② : 35
『「満洲」の図書館　資料展示図録』	（山本　直樹）	623 ② : 36
『終戦時新京蔵書の行方　科学研究費補助金（基盤研究C）平成22年度成果課題 戦前期「外地」で活動した図書館員に関する総合的研究　資料展示図録』	（山本　直樹）	623 ② : 36-37
『ブレーキングニュース　AP通信社報道の歴史　AP通信社の記者たちは戦争、平和、世界のニュースをいかに取材し報道してきたか』	（田中　誠）	624 ③ : 32
『水生昆虫大百科　2011年度特別展「およげ!ゲンゴロウくん～水辺に生きる虫たち～」展示解説書』	（梶田　英知）	625 ④ : 33
『仙台本のはなし　24人でつくりました　仙台文学館ゼミナール2009-2010本作りワークショップ』	（大谷　昌俊）	626 ⑤ : 30
『富士山周辺の災害と対応　地域の古文書等を通して』	（濱田　佑史）	627 ⑥ : 30
『SPレコードレーベルに見る日蓄―日本コロムビアの歴史』	（山本　俊亮）	628/629 ⑦/⑧ : 26
『装潢史』	（青木　留美子）	630 ⑨ : 21
『テレビと芝居の手書き文字　これまで歩いた道』	（髙三瀦　美穂）	631 ⑩ : 30
『うまいぞ！シカ肉　捕獲、解体、調理、販売まで』	（松永　しのぶ）	632 ⑪ : 24
『日本時間　日系社会向けのラジオ番組　ブラジル編』	（蛭田　顕子）	633 ⑫ : 19

NDL News
最近の動き

当館にかかわる新しい動き、重要な会議等の報告。

中国国家図書館との第31回業務交流	622 ① : 31
平成24年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会	622 ① : 32
デジタル化資料の図書館送信に関する改正著作権法の施行	622 ① : 33
法規の制定　【告示第1号】複写料金に関する件の一部を改正する件	622 ① : 33
平成24年度レファレンス研修	623 ② : 38
国際政策セミナー「2012年アメリカ大統領選後の日米関係の展望」	624 ③ : 33
おもな人事	625 ④ : 34-35
第23回納本制度審議会	626 ⑤ : 31
法規の制定　【規則第1号】国立国会図書館展示会出品資料貸出規則の一部を改正する規則	626 ⑤ : 32
韓国国立中央図書館との第16回業務交流	628/629 ⑦/⑧ : 27
「国立国会図書館の資料デジタル化に係る基本方針」の策定	628/629 ⑦/⑧ : 27
おもな人事	628/629 ⑦/⑧ : 27
法規の制定　【規則第2号】国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則 【規程第1号】国立国会図書館法によるオンライン資料の記録に関する規程 【規程第2号】国立国会図書館組織規程の一部を改正する規程 【告示第1号】国立国会図書館法第二十五条の四第四項に規定する金額等に関する件	628/629 ⑦/⑧ : 28
第24回納本制度審議会および第10回納本制度審議会代償金部会	630 ⑨ : 22-23
平成25年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会	630 ⑨ : 23
第3回科学技術情報整備審議会	630 ⑨ : 24
平成25年度国際子ども図書館連絡会議	630 ⑨ : 24
法規の制定　【規則第3号】国立国会図書館組織規則の一部を改正する規則 【規則第4号】国立国会図書館資料利用規則及び国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則	630 ⑨ : 25
法規の制定　【規則第5号】国立国会図書館資料利用規則及び国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則の一部を改正する規則	632 ⑪ : 25
おもな人事	632 ⑪ : 25
中国国家図書館との第32回業務交流	632 ⑪ : 26

お知らせ

新しいサービス、イベント、研修等のお知らせのほか、刊行物の新刊案内を掲載。

東京本館「利用ガイダンス」	622 ① : 34 625 ④ : 37
国際政策セミナー「2012年アメリカ大統領選後の日米関係の展望」	622 ① : 35
電子展示会「近代日本人の肖像」に252人の肖像を追加します	622 ① : 36
国際子ども図書館展示会「子どもの健やかな成長のために2012 ―厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）の紹介」	622 ① : 37
国際子ども図書館講演会「東日本大震災と子どもの読書を考える」	622 ① : 38
子どものための絵本と音楽の会	622 ① : 39
平成24年度利用者アンケートの結果を公表しました	623 ② : 39
東日本大震災アーカイブ公開記念シンポジウム「東日本大震災の記録をのこす意志、つたえる努力」	623 ② : 40-41
国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）をリニューアル公開しました	623 ② : 42
オンライン資料制度収集説明会（第2回）	623 ② : 43
デジタル化資料活用研修会のご案内	623 ② : 44
平成24年度図書館及び図書館情報学に関する調査研究「日本の図書館におけるレファレンスサービスの課題と展望」報告会	623 ② : 44-45
第9回レファレンス協同データベース事業フォーラム	623 ② : 45
関西館小展示（第13回）「花ひらく少女歌劇の世界」	623 ② : 46
国際子ども図書館展示会「日本の子どもの文学―国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」のご案内	623 ② : 47
デジタル化資料の追加公開について	624 ③ : 34
平成25年度国立国会図書館職員採用試験	624 ③ : 35
平成25年度図書館情報学実習生を募集します	624 ③ : 36
4月1日から図書館間貸出資料の受領通知が必要になります	624 ③ : 37
国際子ども図書館講演会「私が子ども時代に出会った本 ―― 落合恵子」	624 ③ : 38
本の万華鏡（第12回）「紙の上の旅・人・風俗 ― 江戸の双六 ―」	624 ③ : 39
「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」の本格サービス開始	624 ③ : 40
平成25年4月30日から遠隔複写サービスの一部を変更します	625 ④ : 36-37
博士論文の送付方法の変更について	625 ④ : 38
洋図書等の目録規則にRDAを使用します	625 ④ : 39
電子展示会「ヴィクトリア朝の子どもの本：イングラムコレクションより」提供開始	625 ④ : 40
国際子ども図書館展示会「絵本で知る世界の国々―IFLAからのおくりもの」	625 ④ : 41
調査報告書『海洋開発をめぐる諸相』『海洋資源・エネルギーをめぐる科学技術政策』を刊行しました	625 ④ : 42
国際子ども図書館講演会「児童文学と教育をつなぐもの　―教材「ごんぎつね」を軸に考える―」	626 ⑤ : 33
平成25年度の図書館員を対象とする研修	626 ⑤ : 34-35
図書館調査研究リポート　No.14『日本の図書館におけるレファレンスサービスの課題と展望』を刊行しました	627 ⑥ : 31
オンライン資料収集制度（eデポ）が7月1日から始まります	627 ⑥ : 32-33
国際子ども図書館夏休み催物「科学あそび2013」	627 ⑥ : 34
中高生のための「国立国会図書館の仕事」紹介	627 ⑥ : 35
デジタル化資料の図書館等への送信に関する説明会	628/629 ⑦/⑧ : 29
国立国会図書館データベースフォーラム（関西館）	628/629 ⑦/⑧ : 30
平成25年度「児童文学連続講座―国際子ども図書館所蔵資料を使って」	628/629 ⑦/⑧ : 31
国際子ども図書館講演会「那須正幹さんに聞く　―ズッコケ三人組からのメッセージ―」	628/629 ⑦/⑧ : 32
国際子ども図書館展示会「世界をつなぐ子どもの本―2012年国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト受賞図書展」	628/629 ⑦/⑧ : 33
関西館小展示（第14回）「東南アジア世界遺産の旅」	628/629 ⑦/⑧ : 34
「戦略的目標」を策定しました	628/629 ⑦/⑧ : 35
国立国会図書館データベースフォーラム（東京本館）	630 ⑨ : 26

平成25年度レファレンス研修	630 ⑨ : 27
第15回図書館総合展に参加します	630 ⑨ : 28-29
子どものための音楽会	630 ⑨ : 29
シリーズ・いま、世界の子どもの本は？（第7回）「いま、フランスの子どもの本は？」	630 ⑨ : 30
本の万華鏡（第13回）「千里眼事件とその時代」	630 ⑨ : 31
総合調査報告書『日米関係をめぐる動向と展望』を刊行しました	630 ⑨ : 32
資料のデジタル化に伴い原資料の利用を停止します	631 ⑩ : 31
国際政策セミナー「欧州におけるリージョナリズム　―道州制論議への示唆―」	631 ⑩ : 32
関西館講演会「中国の資料デジタル化プロジェクト　―国際連携を進めるCADAL―」	631 ⑩ : 33
国際子ども図書館講演会「トルコにおける児童書の執筆と出版」	631 ⑩ : 34
平成25年度障害者サービス担当職員向け講座	631 ⑩ : 35
年末年始のご利用について	632 ⑪ : 27
東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「未来をつくる地域の記憶」	632 ⑪ : 28-29
本の万華鏡（第14回）「アフリカの日本、日本のアフリカ」	632 ⑪ : 30
平成25年度子ども読書連携フォーラム	633 ⑫ : 22-23
平成25年度児童サービスワークショップ	633 ⑫ : 24

●新刊案内　国立国会図書館の編集・刊行物

外国の立法　立法情報・翻訳・解説　第254号～第257号	622 ① : 40 625 ④ : 43 628/629 ⑦/⑧ : 35 631 ⑩ : 36
カレントアウェアネス　314号～317号	623 ② : 48 625 ④ : 44 628/629 ⑦/⑧ : 36 632 ⑪ : 31
日本の子どもの文学―国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み	623 ② : 48
平成24年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「イギリス児童文学の原点と展開：家庭小説・冒険小説・創作童話・学校物語」	632 ⑪ : 32
レファレンス　第743号～第754号	毎号

『国立国会図書館月報』のご購入については、社団法人 日本図書館協会へお問い合わせください。
バックナンバーも取り扱っております。

〒104-0033
東京都中央区新川1-11-14
電話　03（3523）0812（販売）

NATIONAL DIET LIBRARY MONTHLY BULLETIN

No.633 12 December 2013

CONTENTS

02 <Book of the month - from NDL collections>
The care of books: Library buildings, equipment and fittings

04 Future Libraries: Infinite Possibilities
World Library and Information Congress: 79th IFLA General Conference and Assembly

18 The Librarians of Fukushima

19 <Books not commercially available>
○*Nihon jikan : Nikkei shakai muke no rajio bangumi. Burajiruhen*

20 <Tidbits of information on NDL>
We are making NDL original items

22 <Announcements>
○Forum for cooperation on children's reading FY2013
○Workshop on children's services FY2013
○Book notice - Publications from NDL

26 Annual index to *National Diet Library Monthly Bulletin*, nos. 622-633

国立国会図書館月報

発行所 国立国会図書館
編集責任者 田中久徳
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03（3581）2331（代表）
FAX 03（3597）5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成25年12月号（No.633）
平成25年12月20日発行 定価525円（本体500円）

発売 社団法人日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03（3523）0812（販売）
FAX 03（3523）0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社 正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ（http://www.ndl.go.jp/）＞刊行物＞国立国会図書館月報でご覧いただけます。

表紙・本文 中性再生紙使用

「[十二月煤掃]」
十返舎一九賦　一陽齋（歌川豊国（1世））画
［江戸］　鶴屋金助　文化8（1811）
1枚　36.1×24.8cm
（『豊国十二ヶ月』＜請求記号　寄別2-8-1-5＞所収）

国立国会図書館月報

平成25年12月20日発行（毎月1回20日発行 12月号通巻633号）

発売：社団法人 日本図書館協会　定価525円（本体500円）

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

雑誌 03919-12